

村政懇談会（石神地区） 会議録

～災害への備えについて～

記録者：小野瀬

○日 時 令和5年7月26日（水） 18時～20時

○場 所 石神コミュニティセンター 会議室

○出席者 <石神地区> ※敬称略

黒澤隆（内宿一区自治会長），八木秀樹（内宿一区副自治会長）
岡部ちい子（内宿一区地域福祉委員長），小泉光一（内宿二区自治会長）
小泉四郎（内宿二区自治会），小泉博美（外宿一区自治会長）
上野勤（外宿一区副自治会長），黒羽福子（外宿一区福祉委員長）
廣原茂（外宿二区自治会長），神長明男（外宿二区副自治会長）
市毛源一（竹瓦区自治会長），根本久（竹瓦区副自治会長）

計12名

<東海村>

山田村長，村民生活部 池田部長
村民活動支援課 伊藤課長，高橋課長補佐，砂川係長
防災原子力安全課 大道課長，平根副参事，竹内課長補佐
石神コミュニティセンター 三瓶センター長，小野瀬副センター長，宮内専門センター

計11名

○主な内容

1. 村長あいさつ

【山田村長】

本日は、令和5年度村政懇談会ということで、この石神地区が最初になる。後ほど趣旨については伊藤課長から説明がある。

先日皆さんには、県と村の共催による避難強化訓練に参加していただき感謝申し上げます。暑い中で心配だったが、実際申し込んだ方の中にも暑さのため参加されない方もおり、参加された人数は多くはなかった。皆さん改めて災害時どんな対応をするかということでタイムラインを作成するなど、行動が確認できたかと思う。参加者が少なかったのもまだまだ住民の方に知っていただく努力が必要である。いろいろな啓発をしているが、実際行動しようと思っても行動ができない。訓練を通して体験してもらうことが必要かと思う。

村は、防災についてこれまでも原子力災害を想定した避難訓練を実施してきた。実際には、自然災害との複合災害も考えられる。ただ、原子力災害と自然災害を同時に訓練するのは大変なので、そのようなシナリオは作りづらい。必要なものは村もしっかりとやっていきたい。

そのような中で、今年度の村政懇談会は6地区、防災をテーマに実施する。東日本大震災から12年経つが共助も時代の流れによってなかなかできない。現状の厳しさも切々と感じると思う。現場の事情も考えながら、村としてどこまでできるか。公助はマンパワーが限られている。自助、共助はやってほしい。そのためにはどうするのか、一緒に考えていきたい。

時代が変わり、国や県でいろいろな動きが出ている。村もいろいろなことを始めている。皆さんへの情報提供を遅れないようにし、住みよい街づくりを進めていく。

従来型の誰でも参加できる村政懇談会を、ここ数年は参加者を限定するやり方に変えて実施してきた。生活の課題についても時間を取って意見交換を行いたい。参加者の方には意見をお願いしたい。

2. 災害への備えについて資料の説明, 情報提供

①自然災害への備え 【防災原子力安全課 竹内課長補佐】

②原子力災害への備え【防災原子力安全課 平根副参事】

3. 意見交換

【内宿一区自治会長 (石神地区自治会長) 黒澤 隆】

- ・自分自身の災害の備えをチェックした。ハザードマップで調べると自宅の標高は 22.0 メートルなので、洪水、内水、高潮、土砂災害、津波による危険性は想定されないとあったため、地震を想定した。
- ・非常用品 25 品目のチェックをした。14 品目 56 パーセントの備蓄で反省した。また室内の家具転倒防止も確認したが、やらなければならない所が 6 箇所なのに 2 箇所しかやっていた。
- ・防災対策の資料には、非常持ち出し袋は大切だがしまい込んだままになっていないか、定期的に中身をチェックしようとか、年に数回非常時を想定して非常用品を使ってみると、いざという時に落ちていて行動できるとあった。最終的には自分でどうするかにかかっているとあった。
- ・自治会の防災はコロナの前は班員の安否確認、消防署員に来てもらって火災を想定した消火器の使い方や煙体験ハウスでの避難訓練、発動機の使用方法等の研修をしている。コロナ禍では少人数だったが消火器の使い方、発電機の操作等を行った。
- ・共助では普段からの絆が大事ということで、ふれあい声掛け運動を実施している。どこに誰がいてどういう状況なのか知らなければ共助はできない。
- ・防災組織の強化とさらなる訓練が必要だと思う。
- ・下半期には部会長が地震科学館（東京）に行って、地震とはどんなに恐ろしいものか体験してくる。
- ・村と共助、公助、タイアップして現実のものにしていかなければならない。

【内宿一区副自治会長 八木 秀樹】

- ・東日本大震災の時にあったらいいのと思ったものが 3 つあった。1 つは芯出しの石油ストーブ。お湯を沸かしたりできた。2 つ目はソーラー式の携帯電話の充電器。3 つ目は水を貯めておくこと。風呂に水を貯めてトイレ等に使う。5 リットルのポリタンクに水を貯めて定期的に入れ替える。
- ・非常食はあまりしまわないようにしている。
- ・何気にやれることはやっている。

【内宿一区自治会 地域福祉委員長 岡部ちい子】

- ・若い時からボランティア活動をしている。
- ・25, 6 年間、役場に勤務して、その間福祉関係の部署が長く、特に高齢者とずっと長いお付き合いだった。
- ・定年退職し、内宿一区の民生委員をやっていたときに東日本大震災が起きた。担当している一人暮らしの方の家に行くと、余震がひどく怖がっていたため役場に避難を促した。その時、「今晚娘さんが訪ねてくるかもしれないから、隣の方に避難先を伝えておきましょう。」と話したら、「隣の若い人たちは私のことは頭にないから。」と言われたが、立場上伝えないわけにもいかなないので伝えた。案の定、娘さんが夜中に訪ねてきて、隣の方に聞いて役場で会うことがで

きた。娘さんが帰った後も隣のご夫婦がお世話してくれた。その一人暮らしの方から「普段から挨拶もしていないのに結構気を使ってくれる。隣近所はこんなにありがたいものなのか。」と言われた。隣近所は大切である。個人情報だからということで知り得づらい世の中だからこそ隣近所は大切である。

- ・そのような経験から、隣近所で見守りをやりましょうと呼び掛けた。初めは呼び掛けに応じてもらえなかったが、旧民生委員、民生委員、自治会役員や村社協の協力を得て、昨年5月に「声かけ運動」を発足することができた。現在は119世帯、15グループ、内宿一区の4分の3くらいの方で70歳以上の方の見守りを実施している。2人体制で行っている。
- ・地域の方の娘さんからは「地域でこのようなことをやっていただいて安心です。」という感謝の言葉をいただいたので、「声かけ運動」を続けていこうと思っている。

【内宿二区自治会長（石神地区自治会副会長） 小泉 光一】

- ・自治会の自主防災組織の活動をどうすればいいのか悩んでいたが、本日の説明を聞いて力を入れてやっつけようと思った。その際は防災原子力安全課の協力をお願いしたい。
- ・原子力施設での事故を想定した広域避難計画があるが、私の情報では、取手市、守谷市、つくばみらい市に避難することになっているが、バスが足りないとか、マイカーでは渋滞するとか、原子力災害でのバス等での避難計画の進捗状況はどうか伺いたい。

⇒車の渋滞対策としては、茨城県警と連携が大変重要と考える。現地の取手警察署に協力してもらい高速道路を降りた後の誘導等の訓練をしている。バスについては、各避難所の人数を逐一把握しながら県を通じて手配をする。最後の0人になるまで続ける。隣の市町村の人も避難を開始してしまう場合もあるので、茨城県としては、PAZの方及びUPZの方に対する説明を広報紙などで周知をしているところである。全面緊急事態になる前に、警戒事態の段階で村から広報する。避難広報より前に避難してしまう方については防ぐことはできないが、情報とご自身の避難の対応を判断していただくことを周知していく。

また、広域的に避難することになり県南3市に向かう時、国道6号、常磐道が混んでいる状況が事前に把握できれば遠回りしても迂回する判断ができると思う。その時の状況で判断していただければありがたい。【防災原子力安全課】

【内宿二区自治会 小泉 四郎】

- ・東海村も高齢者が多くなってきているが、線状降水帯が発生した場合、どのように避難すればいいのか。
- ・防災無線が強風や雨などで聞こえない場合、どのように対応すればいいのか。
⇒情報の入手手段は、いくつか準備いただきたいと思う。戸別受信機から放送があった際、雨風が強くて内容が聞こえない場合があるかもしれない。その時には携帯電話をお持ちであれば、ツイッター、フェイスブック、ラインなどをご確認いただきたい。「Yahoo! 防災情報」では、「東海村で避難所を開設しました」などというNHKのテレビで見るとようなテロップが流れることになっている。【防災原子力安全課】

【外宿一区自治会長 小泉 博美】

- ・防災対策の備品は家には何も無かった。防災ラジオも行方が分からない状況だった。このような方が東海村にどのくらいいるのかと思った。改めて防災備品を備えておく必要性を感じた。
- ・外宿一区では8月に防災訓練を計画しているが、今までは、班長、役員の参加で実施したが、役員の幅を広げて50人くらいで行うことを予定している。消火器の扱い、リヤカーの組み立て、発電機の操作等を実施したい。扱い方などを知らない人がたくさんいると思うので、多く

の人に知らせる必要がある。訓練だけでなく、防災講座も村から来てもらって実施する必要があると思う。

【外宿一区副自治会長 上野 勤】

- ・3.11の時を思い出すと、私はキャンプが好きでキャンプ用品が役に立った。コンロは様々な燃料があって役に立った。井戸水は発電機で汲み上げてトイレで使用するなど、近所の方に喜ばれた。
- ・外宿一区では、班長が同じ班の方の安否確認をし、家屋の被害状況を収集して、集会所にいる本部長である自治会長に報告するという組織的な防災訓練を継続して実施している。
- ・ただ、3.11のことを想像すると、外宿一区の高い所に住んでいる人たちは、竜巻や感電などに注意がいつていると思われる。本当にこの訓練は役に立つのか、最近、企画しながら思う。
- ・UPZは屋内退避で本当に大丈夫なのかと思う。そこは、訓練以外に教育していただくことが大事だと思う。
- ・訓練の方法について考えようと思っている。村から地区の共助という観点での訓練とはどういうものなのか、ヒントをいただきたい。新しい観点で役に立つ訓練をしたい。

【外宿一区自治会 福祉委員長 黒羽 福子】

- ・福祉委員長3期目に入り、高齢者と接点ができ、話しやすくなった。月に1回、サロンを実施している。コロナ禍になってできなかったが、近頃は声を掛けて多くの方が参加している。サロン活動に参加している高齢者の方も元気になった。
 - ・災害時、私は福祉関係でしか対応ができないので、何か和めるようなものを教えてもらえないかと思って参加した。
 - ・自宅での非常時への備えとしては、自家発電機やガスコンロ、避難袋の用意、2リットルの水を玄関に2、3箱置いている。
- ⇒避難の際に福祉的視点で何かできないかとのことであるが、要支援者など、1人になってしまうのが一番不安だと思うので、普段から連絡が取れるような手段について話しておいていただくと非常にありがたいと思う。電話ができる状況であれば、電話で声を掛けてあげられるといい。【防災原子力安全課長】

【外宿二区自治会長 廣原 茂】

- ・3.11の話がいろいろと出ているが、我が家も被害に遭い、補助金を頂き、新築し、当分は大丈夫だと思う。
- ・外宿二区は坏地区という久慈川沿いの地域を抱えている。自治会長として、自助の方は当然考えているが、共助を中心に考えていかなければならない。要支援者の命を救ってどのように避難させるかが中心になるのではないかと考えて、地域福祉課の出前講座で勉強した。併せて、集会所の火災を想定した避難訓練を実施した。要支援者をどのように避難させるかが、自治会として一番大切なことだと思っている。
- ・民生委員や安心サポーターがやむを得ない事情でフォローできない場合どうするかについては、地域の皆さんで助け合うことだと思っている。外宿二区は要支援者1人に対して2人の安心サポーターがつくようになってきているが、2人、3人、4人と増やして、1人目が駄目なら2人目、2人目が駄目なら3人目と、みんなでサポートしていきたい。
- ・実際に災害が発生した時には必ずパニックが起こると思う。1割の方は冷静に判断するが、8割の方は冷静に判断できない。もう1割は何が何だか分からなくなってしまう。冷静に動くためには、やはり訓練は大事なので、自治会として訓練の機会をなるべく作り、備えるこ

とが大事である。

- ・高齢者の命を守るために避難所までの避難計画を立て、確実に避難ができるよう体制を作ることが大事である。

【外宿二区自治会副自治会長 神長 明男】

- ・昭和の終わりの頃におきた約 60 年ぶりの水害の時、私の実家は天子町にあり、キャンプ場付近だったため水が結構来た。床上浸水にはならなかった。それから 4 年後、久慈川の天子町の鉄橋が落ちたときは、平屋建ての実家の屋根の上まで水が来た。そのようなことを踏まえて災害時の持ち出しセットを用意し、親に渡しておいたが重くて運ぶことができないと、親に言われたことがあった。そのことを踏まえて、必要な物を入れる小さなリュックを準備した。

【竹瓦区自治会長 市毛 源一】

- ・竹瓦区は低い地域で大雨時、久慈川の増水が心配である。令和元年に村から避難指示があったが、親が高齢者で膝が悪いためコミセンに避難させなかった。高齢者避難勧告により本来は早く避難させるべきだった。
- ・今回自治会長になり、台風 2 号の時、避難指示があると思ってテレビを見ていたが、何もなく一夜を過ごした。
- ・7 月 16 日には茨城県と東海村の防災訓練の実施により、要支援者の避難確認として安全サポーターとの連絡など、いろいろと確認できた。
- ・平成 25 年に竹瓦の防災組織ができた。その時は地震を中心に訓練を実施した。約 6 割の方が参加され、石神小学校へ歩いて避難経路を確認しながら時間がどのくらい掛かるか確認しながら訓練をした。
- ・今年は我が家のタイムラインについて、防災原子力安全課の協力を得て研修会を行った。39 名の参加があった。現在 64 世帯なので 6 割の方が参加してくれた。関心が高かった。
- ・防災の補助金をどのように活用したら良いのか分からない。参考までにこういうものを揃えるといいという一覧表を配付していただけたらと思う。
⇒非常食料を備蓄しているならば定期的に入れ替えをしていくことも一つの手段だと思う。賞味期限が近づいているのであれば防災訓練などの際に PR も兼ねて配布してもいいと思う。不明な点がある際は、ご相談いただければできるだけ良い方向に考えていく。【防災原子力安全課】

【竹瓦区自治会副自治会長 根本 久】

- ・石神コミセンへの避難道路の一部がハザードマップを見ると浸水するようになっているので危惧している。そこは高圧線の関係で道路を低くしてある。
- ・避難タワーがあれば良いのかと思う。3. 11 の時、津波が逆流した。堤防を嵩上げしたが、あと 1 メートルくらいのところまで増水した。
- ・原発の工事が自宅から見える。再稼働ありきで動いているのは不安の材料である。
- ・災害対策として、車の燃料は常に満タンにし、電気は太陽光発電の蓄電池を購入して準備している。結果的には自分の身は自分で守るように考えている。

【外宿一区副自治会長 上野 勤】

- ・PAZ, UPZ について集会所で勉強会として教えていただくことは可能か。
⇒いつでもご相談いただければと思う。【防災原子力安全課】

【山田村長】

一人ひとりご意見をいただき、皆さん本当によく考えていただいているし、区民の方々の安全・安心に非常に気を配り、大変な思いをされてやっているなとつくづく感じられ、ありがたく、感謝申し上げます。

今日、防災で自然災害と原子力災害の情報を示した。基本的には、自然災害は自助、共助でお願いしたい。原子力災害はあらゆる機関を総動員して公助でやる。安心サポーターも原子力災害時はやらなくていい。近所の人のことまで皆さんにお願いすることはできない。役場や県、関係する事業者も含めて総動員して何とか対応するので、まずご自身が逃げることを考えてほしい。自然災害と原子力災害はそこが決定的に違う。自然災害の訓練は地域でもできる。地域を超えた訓練は役場が主体でやっていく。役場が行う広域的な訓練と地域で共助を主に行う訓練はそれぞれの自治会で継続してもらえればと思う。

原子力災害をきちんとお知らせしたかったのは、原電の東海第二発電所で事故が起きたのか、原研の JRR3 で事故が起きたのか、それぞれで行動が違うこと。東海第二発電所の避難計画ばかりが報道されているので、どこで事故があってもすぐ避難しなければならないと思われてしまうこと。原電で事故が起きた場合は逃げる。ただ、放射性物質が放出される前、空气中が汚染される前に逃げるので、東海村の方が逃げるタイミングは安全である。

他の地域は、UPZ は一度自宅でモニタリングの数値を見て、それから避難する。避難するかどうかは、国が判断するので勝手に行動をしないでいただきたい。避難する事により被ばくするリスクがある。東海村の住民が避難するタイミングで UPZ の人が一緒に避難するというのは危険である。

東海村としては、国、県などの広域的な行政機関が UPZ の人に教育してもらい、村民にはできるだけ渋滞させないような環境をつくりたい。国や県には、東海村の住民が渋滞しないで避難するためには、国や県がしっかり正しい知識を周知してもらわなければならないということをお願いするので、この計画を理解していただきたい。

ただこれは基本パターンである。状況が変わればこの通りにいかない場合もある。そうすると最終的には役場が出す避難指示や情報を頼りにしてほしい。役場から情報が出るときはマスコミからも情報が出ると思う。最終的にはテレビで放送されたりすると思うが、役場が出した情報が正しいと思ってもらいたい。

東海第二発電所については不安もあるとおっしゃっていたが、今はまだ村も広域避難計画が策定していないので、まずはこれをしっかり作ることに、緊急時のバスの問題もあるが、いろいろな課題をどうするかというのは、国のレベルで議論していくものになる。そのような過程を皆さんにはお伝えしていく。

防災については、いろいろ経験をしていくとその知見を踏まえて新しい対策が取られていくと思われる。久慈川の風水害への備えについても、堤防を高くしてきたが、令和元年の豪雨で上流では決壊した。今は久慈川については河道掘削といって、川底をかなり掘り、水はかなり流れるようになっているので、同じような雨が降っても海に流れやすくなっている。ただ、また溜まってくるので、どんどん削っていく。堤防を高くするというより河道を良くするように浚渫工事をしながらやる。やはり、早く水を流さないはずい。上のほうには一時的に溜めるような工夫もしている。工夫しているが、ハード的には限界がある。最後はより高い所へ避難すること。避難タワーという話も出たが、日立市神田町でもできたので、そこまで必要かどうかその必要性については考えていく。

常に新しい知見を踏まえながら対策はブラッシュアップしていく。これで完璧というものはないと思う。村のハザードマップなどは改定されていくと思うので、今後とも新しい情報をぜ

ひ確認して行動してもらいたいと思う。

これから各地域、各自治会と防災以外のことも含めて話し合いをするが、防災だけでなく、福祉でも何でも、役場職員を出前講座でどんどん呼んでほしい。呼んでもらって、地域の困っていることを役場職員に伝えてほしい。その場で解決できるとは限らないが、地域がそのようなことで困っているんだということを役場職員に伝えてもらうことは必要だと思う。役場で何ができるか、職員の方から説明させることも必要だと思う。どんどん役場を使っていただきたい。

【内宿一区自治会 岡部ちい子】

- ・私は在宅ボランティアを立ち上げ、給食サービスをやっていた。高齢者には手作りということですごく喜ばれた。一人暮らしだと毎回の食事作りは面倒なのでコンビニで購入するが、美味しくないとっていた。それは、コンビニ弁当は働く方向の弁当で揚げ物中心だからと思われる。
- ・現在は作り手が高齢化のために作れない。その高齢者が多い中で若い人に参加をお願いしても無理だと思う。50代～60代の方で地域で何かあったときに協力できるボランティアを養成する方法がないかと思う。そういう関係で、お勤めしている方、また仕事を辞めた60歳半ばの方何人かに今聞いているが、「月に一回くらいコミセンに集まってお食事作るんだったら、仲間づくりもできるので、それならばできますよ。」という答えが多い。
- ・そういう方をコミセンで公募していただいて、いざ何かあったときに指導してもらいたい。コミセンに避難してきたからどこかの団体が皆さんにお弁当を提供するのではなくて、避難してきた方も、動ける方は一緒に食事を作れると思う。だけど、それを指導する方、采配を振るう方がいないとできないと思う。そういう意味でぜひコミセン単位、それが無理だったら自治会でも何かできないかなといつも思う。
- ・何かあっても、祭りでも何でも手作りがいいと言うが、今とても私たちはできない。ある時、ある地域で高齢者の食事会をやっていたとき、「うちのところは困らないですよ。」と言った民生委員さんがいた。その方は当番制で年3回ぐらいの食事作りなら喜んで出る方いると言っていた。「毎回、家と職場だけで、地域の中で奉仕する機会がないのでそれは楽しみなんですよ。」という言葉が伝え聞いたことがあった。だから、そういう意味で60代くらいの方が新たにグループを作って何かあったときに、自治会の行事、災害があったときに指導する役割を担うようなシステムをぜひお願いしたいと思う。

【山田村長】

そういう気持ちがある方がいることは素晴らしいこと。ただ、誰かリーダー的な人が必要だと思う。内宿一区にはまとめ役の方がいるのか。それともこれから作るのか。

⇒今はいない。【内宿一区自治会 岡部ちい子】

お声掛けして協力してもいいという人がいて、グループを作ったときに誰かリーダー的な人が必要だと思うので、それはその人たちの中で見つけてもらう。この指とまれでもないけど、声掛けすることは必要だと思う。

これが、内宿一区ではできたとしても、多分他の地区では厳しくなっていて、内宿一区がまずモデル的にやってもらって、それが他の地区でも同じようなことができるのかどうか、それはそれぞれの地区で考えてもらう。実際に料理を作るとなるとコミセンじゃないと、集会所では調理室の関係で無理だと思うので、やはりコミセンを拠点にするしかないと思う。今はコミセン祭りもキッチンカーを入れるような時代になっているので、そこはもう昔に戻せと言ってもやれる人がいないので、地域の実情によって考えていく。ただ、まだそういう力がある、そ

ういう意欲がある方が地域に残っているのであれば、ぜひそこはつなぐことができるように、そのやり方についてはある程度地域でまとめてもらって、村がどの部分を支援するかというのは、また相談させてもらえればと思う。

【外宿一区自治会 黒羽 福子】

- ・サロンについて、参加していただくのに一人当たり 200 円いただき、それで「にじのなか」から混ぜご飯みたいなもち米で作った 300 円程度のお弁当を買っている。差額はこちらで負担している。
- ・そのほかに、私たち役員 3 人で毎回焼き菓子やデザート的なものとして、2, 3 日前に作っている。お店で買うよりは添加物も何もない。会員さんからいただいたオーブンを使って集会所で作る。参加者が 40 名来ても大丈夫なくらいに作ることができる。大体 1 回 2,000 円足らずで 40 名に配ることができるので、そんなに高いわけでもない。
- ・自治会からも補助をもらい、「今度は何にしようね」ということでやっている。

【村民生活部長】

いろいろなご意見をいただき感謝申し上げます。

私は防災担当と村民活動支援も担当しており、今日、防災というテーマで、皆さんのお話を聞いて、やはり単位自治会は共助の要だと感じた。その中で大事なのが、平日頃からの備品の整備や訓練なども防災対策になると思うが、声掛けであるとか、給食のサービスとか、そういうものを通して地域の中の一体感や仲間意識を高めることが、いざという災害時に、普段なかなか交流のなかった若い人が、いざとなった時に助けてくれたという岡部さんからのお話もあったが、普段からのコミュニティーの帰属意識の向上が大事なのではないかと思った。それは例えば、声掛けもそうだが、お祭りや草刈りに参加しながら話した経験があるとか、そういったことを通して、深まっていくのかなと思った。繰り返しになるが、防災に対する共助という部分では単位自治会の役割というのは非常に大きなものがあると感じたので、今後ともよろしくお願ひしたい。